

第5回南知多町公共施設再配置計画検討委員会 議事概要

日時 令和6年3月14日(木)

10:00~11:10

場所 南知多町役場 2階会議室

出席委員

小松 尚	名古屋大学大学院 環境学研究科 教授
原 一雄	愛知県市町村課地域振興室 知多県民事務所担当課長
榊原 英治	知多信用金庫 理事兼総務部長
石垣 菊蔵	公共施設のあり方に係る特別委員会 委員長
榎戸 陵友	公共施設のあり方に係る特別委員会 副委員長
高橋 篤	教育長(再配置計画策定会議副本部長)
高田 順平	副町長(再配置計画策定会議本部長)
山下 陽	南知多町教育委員会
齋藤 恵吾	町民討議会代表
秦 由岐穂	町民討議会代表

事務局

石黒 和彦	南知多町長
大岩 幹治	総務部長
滝本 功	総務部 企画財政課長
相川 久紀	総務部 企画財政課 企画政策係長
山下 公大	総務部 企画財政課 企画政策係
松本 聖生	総務部 企画財政課 企画政策係
西脇 巧	日本工営都市空間(株) 都市再生部 官民連携課
渡邊 菜々子	日本工営都市空間(株) 都市再生部 官民連携課

傍聴席

0人

1. 町長挨拶

- ・本日、5回目となる最後の検討委員会である為、多くの意見を賜りたい。

2. 委員長挨拶

- ・パブリックコメントでの意見を反映し、いくつか修正点がある為、確認をお願いしたい。

3. 報告事項

【事務局】

- ・資料1について説明

【委員からの主な意見】

○（榎戸委員）

- ・旧大井小学校体育館について、条件付きでの売却検討は問題ない。能登半島地震もあり、体育館のような施設は切に必要と感じた。ただパブリックコメントの回答にある「他施設の利用をお願いします。」に関し、大井地区には代替施設がほぼ無いため、少し懸念される。町のほうでご検討いただきたい。

○（秦委員）

- ・パブリックコメント開催に関し、子育て世代にはまったく伝わっていなかった。回答人数が4名というのは少なく、当計画を認知している人も少ないと感じる。「計画案への反映」欄に「無し」と表記するのは、意見を提示した側としては、発言をしても無駄というような残念な印象を受けかねない。

○（事務局）

- ・表記方法について今後は検討させていただく。

○（小松委員長）

- ・「計画案への反映」欄の「無し」については冷たい印象を受ける可能性もあるが、「回答」は丁寧な表記されている。今後の計画推進にあたっては、丁寧な説明を心がけてもらえるといいのではないかと。

4. 議題

（1）南知多町公共施設再配置計画について

【事務局】

- ・資料2、資料3について説明

【委員の主な意見】

○（齋藤副委員長）

- ・かるも保育所の代わりとして、大井保育所あるいは内海保育所のどちらに入所されるのか決まっているのか。

○（事務局）

- ・現段階では未定であり、地域により分散される可能性もある。

○（原委員）

- ・公民館の稼働率について、全国平均値のような明確な指標がないのか。或いは、稼働率の根拠

が希薄なのか。また利用者数以外の指標を検討したのか。

- (事務局)
 - ・統計上、稼働率の全国平均値が存在しない。他の指標での検討に関しては、南知多町全体での指標作成は可能であるが、他市町村との比較が困難である。稼働率の根拠が、コマ数で計算するのが通常だが、公民館毎に考え方が異なる為である。その為、南知多町では公民館の利用者数をもとにした。
- (榊原委員)
 - ・「高い・低い」とするのではなく、利用者人数を表記した方が理解しやすいのではないのか。
- (小松委員長)
 - ・客観的なデータを載せるという点もぜひご検討いただきたい。

(2) 計画を啓発するリーフレットの作成について

【事務局】

- ・資料4について説明

【委員からの主な意見】

- (秦委員)
 - ・硬い印象があり、目次は不要と感じる。特に1ページ、2ページは文字数が多く情報量が多いと感じられる。
- (榊原委員)
 - ・見やすい資料となっている。表紙「町民みんなで考えよう！」のスローガンが大事であるが、今後は、どのようにみんなで考えていく想定なのか。
- (事務局)
 - ・具体的になかを考えるとというよりは、あくまで本計画の認知度を向上させる為の資料として作成している。
- (榊原委員)
 - ・特に、1ページの人口減少に関しては、町民全体で認知するべきことである。そのような観点から、みんなで考える為にもきちんと認識させるということが重要ではないか。
- (小松委員長)
 - ・当リーフレットの周知方法（紙面・町HP等）はどうするのか。
- (事務局)
 - ・メインが web サイトであり、紙面として5か所のサービスセンター、図書室、総合体育館に200部を配置する予定である。
- (小松委員長)
 - ・長期計画の為、随時、情報のアップデートをしながら周知していくことが大事ではないか。定期的に新情報が得られるような資料として、表紙に番号（第〇号等）を記載してはどうか。Webサイトで周知するのは難しく、手渡しが無効な場合もある。30～40年と長期間の計画であるため、毎年、様々な機会を設け、みんなで検討し続けて欲しい。
- (秦委員)
 - ・町HPで公表するにしても、「公共施設再配置計画を策定しました」のような文言では、閲覧す

る気持ちは沸かないと思われる。メーリングリスト等でも、「みんなが使う公共施設の今後の話です!」のようなメッセージ性のある文言を表記し、リンクをクリックするだけなら読みやすいのではないかと。

- (小松委員長)
 - ・積極的なアナウンスをお願いしたい。
- (事務局)
 - ・検討していく。

(3) 来年度からの計画推進体制について

【事務局】

- ・資料5について説明

【委員からの主な意見】

- (原委員)
 - ・南知多町公共施設再配置計画(案)は視覚的にも理解しやすい資料となっている。今後、推進していく上で、所管部署とマネジメント部署で齟齬が発生しがちであるが、役場内での情報共有や役場全体で邁進する姿勢を主張し続けて欲しい。
- (榊原委員)
 - ・リーフレット2ページ「なぜ再配置が必要な?課題2__人口減少への対応」の記載について、再配置計画と並行し人口減少の歯止めをかける対策は進めているのか。
- (事務局)
 - ・元来、南知多町総合計画にて人口減少対策を掲げ取り組んでいる。毎年、住民による評価委員会にて南知多町で実施した事業を評価している。
- (榊原委員)
 - ・総合計画の評価委員会メンバーに意見を伺うことも必要ではないか。
- (秦委員)
 - ・自身も南知多町総合計画の評価委員会メンバーであり、これがきっかけで当委員会にも関わっている。様々な立場の人が参加することは良いことだと感じる。当計画は、建物はなくなるが、最低限必要な機能は、きちんと維持されている点が伝わってくる。今後、企画財政課で管轄とあるが、機能を提供する現場部署(子育て、住民課等)から少し乖離があるような印象がある。現場の意見を反映しながら、機能面を保持することが望ましいと感じる。
- (事務局)
 - ・現場の声をないがしろにということは無いようにしたい。企画財政課では、より効率的な再編や補助金の獲得も考えた全体マネジメントをしたいと思っている。
- (小松委員長)
 - ・再配置計画というのは、終始、金銭面の話がつきまとうことになる。サービスの維持のみならず、新しい価値を提供することも大事である。双方にとって良好な組織マネジメントを行ってほしい。
- (高田委員)
 - ・南知多町公共施設再配置計画(案)「第8章__計画の推進・進捗管理」に、行政と町民の各立場の役割や協働で行う役割の記載がある。今後、双方が協働で見直しができる体制構築を検討

しているのとしたら、リーフレットにも、ぜひ推進・進捗体制を記載してはどうか。

○ (事務局)

- ・あくまでも啓発、本編への導入のきっかけとしてリーフレットを作成しており、推進体制については重要ではないと認識している。

○ (小松委員長)

- ・今後、行政と町民との関係性は変化していくことが想定される。南知多町公共施設再配置計画(案)「第8章_計画の推進・進捗管理」には、「町民が主体となった運営も視野に検討」との記載がある。その場合、町民に情報を伝えるだけでなく、担い手となる視点も必要になる。これは双方意識改革が必要である。最近、他市町村の小規模施設にて、市民が利用だけでなく運営に関わる事例があったが、少しずつ主流になっていくであろう。今後、行政職員も減り、自立した町民による運営が必要になってくるのではないかと。「今は、町民で考えよう！」だが、「今後は、町民で行動しよう！」等のメッセージを伝え、町民も仲間に入れる仕組み作りが大事ではないかと。

○ (高橋委員)

- ・web サイトには一度リーフレットを掲載するとし、広報誌のコラム等で継続的に発信してはどうか。これにより定期的に町民の意識を変えることに繋がるのではないかと。その際には、人口減少に対する子育て支援や移住定住施策、仕事の創出等を記載することで、双方が関係しているとの認識付けが出来るのではないかと。

○ (事務局)

- ・意見を踏まえ検討していく。

4. その他

○ (事務局)

- ・今後のスケジュールについて、本委員会での意見を踏まえて、本計画の最終決定を今月中に実施する。

○ (小松委員長)

- ・様々な自治体で再配置計画に関わってきた中で、公共施設の延床面積 50%削減というのは高い目標である。約1年半、非常に前向きな議論がされているという印象であった。南知多町では、意気込みや前向きさを感じられ、敬意を感じた。これまでの経緯から、今後どのように実現化されるか町民と行政がどのようなタックを組んでいくのかという点が課題となる。

公共施設が半減するだけでなく、居住地の再編にも大きく影響する。他事例では、上位計画である総合計画が連動していないことも多い。人口約 16,000 人というコンパクトな南知多町が、今後、どのような知恵を絞り、変化していくのかを楽しみにしている。

本計画を見るに、まずは第一歩踏み出せるのではという印象ではあるが、今後、従来とは異なる地域社会を迎えていくにあたり、最初に取り組む事業が試金石となる。みんなで前向きに取り組んでいただきたい。

○ (町長)

- ・約2年間ご尽力いただき、感謝を申し上げる。予定では、4回の委員会開催であったが、アンケートやヒアリング、ワークショップ等で多数の意見を受け、回数を増やした。公共施設への変化に興味を持ち、熱い思いを持った町民から公共施設の重要性を強く感じた。

今後、災害に対しても人や自然との共生が大事となってくるが、当計画の非情さや厳しさが伝

わった時、町民との協働を切に願う。

また人口減少について、様々な会合にて本年度の出生数（36）という数字は、強烈であり、身近な問題とし直感できたようである。未来の為の再編として公共施設再配置計画を推進していく。

以上